

忌むべきこと
汚れ

会16:11,13 ノアノ洪水

3:23

1 第六年の六月五日に私が私の家に座し、ユダの長老たちが私の前に座していたとき、主なる神の手が私の上に乗った。

2 私は見ていると、見よ、人のような形があつて、その腰とみられる所から下は火のように見え、腰から上は光る青銅のように輝いて見えた。

3 彼は手のようなものを伸べて、私の髪の毛をつかんだ。そして霊が私を天と地の間に引きあげ、神の幻のうちに私をエルサレムに携えて行き、北に向かった内庭の門の入口に至らせた。そこには、ねたみをひき起すねたみの偶像があつた。

4 見よ、そこに、私がかの平野で見た幻のようなイスラエルの神の栄光があらわれた。

5 時に彼は私に言われた、「人の子よ、目をあげて北の方をのぞめ」。そこで私が目をあげて北の方をのぞむと、見よ、祭壇の門の北にあつて、その入口に、このねたみの偶像があつた。

6 彼はまた私に言われた、「人の子よ、あなたは彼らのしていること、すなわちイスラエルの家がここで行っている大いなる憎むべきことを見るか。これは私を聖所から遠ざけるものである。しかしあなたは、さらに大いなる憎むべきことを見るだろう」。

7 そして彼は私を庭の門に行かせた。私が見ると、見よ、壁に一つの穴があつた。

8 彼は私に言われた、「人の子よ、壁に穴をあけよ」。そこで私が壁に穴をあけると、見よ、一つの戸があつた。

9 彼は私に言われた、「はいつて、彼らがここですす所の悪しき憎むべきことを見よ」。

10 そこで私はいつて見ると、もろもろの道うものと、憎むべき獣の形、およびイスラエルの家のもろもろの偶像が、まわりの壁に描いてあつた。

11 またイスラエルの家の長老七十人が、その前に立っていた。シャパンの子ヤザニヤも、彼らの中に立っていた。おのおの手に香炉を持ち、そしてその香の煙が雲のようにのぼつた。

12 時に彼は私に言われた、「人の子よ、イスラエルの家の長老たちが暗い所で行う事、すなわちおのおのその偶像の室で行う事を見るか。彼らは言う、『主はわれわれを見られない。主はこの地を捨てられた』と」。

13 また私に言われた、「あなたはさらに彼らがなす大いなる憎むべきことを見る」。

14 そして彼は私を連れて主の家の北の門の入口に行つた。見よ、そこに女たちがすわつて、タンムズのために泣いていた。

15 その時、彼は私に言われた、「人の子よ、あなたはこれを見たか。これよりもさらに大いなる憎むべきことを見るだろう」。

16 彼はまた私を連れて、主の家の内庭にはいつた。見よ、主の宮の入口に、廊と祭壇との間に二十五人ばかりの人が、主の宮にその背中を向け、顔を東に向け、東に向かつて太陽を拜んでいた。

17 時に彼は私に言われた、「人の子よ、あなたはこれを見たか。ユダの家にとつて、彼らがここで行っているこれらの憎むべきわざは軽いことであるか。彼らはこの地を暴虐で満たし、さらに私を怒らせる。見よ、彼らはその鼻に木の枝を置く」。

18 それゆえ、私も憤つて事を行う。私の目は彼らを惜しみ見ず、またあわれまない。たとい彼らが私の耳に大声で呼ばわつても、私は彼らの言うことを聞かない」。

7:9

1 時に彼は私の耳に大声に呼ばわつて言われた、「町を罰する者たちよ、おのおの滅ぼす武器をその手に持つて近よれ」と。

2 見よ、北に向かう上の門の道から出て来る六人の者があつた。おのおのその手に滅ぼす武器を持ち、彼らの中のひとりには亜麻布を着、その腰に物を書く墨つぼをつけていた。彼らはいつて来て、青銅の祭壇のかたわらに立った。

3 ここにイスラエルの神の栄光がその座しているケルビムから立ちあがつて、宮の敷居にまで至つた。そして主は、亜麻布を着て、その腰に物を書く墨つぼをつけている者を呼び、

4 彼に言われた、「町の中、エルサレムの中をめぐり、その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ」。

5 また私の聞いている所で他の者に言われた、「彼のあとに従い町をめぐつて、撃て。あなたの目は惜しみ見ることな。またあわれむな」。

6 若者男女をことごとく殺せ。しかし身にしるしのある者には触れるな。まず私の聖所から始めよ」。そこで、彼らは宮の前にいた老人から始めた。

7 この時、主は彼らに言われた、「宮を汚し、死人で庭を満たせ。行け」。そこで彼らは出て行つて、町の中で撃つた。

8 さて彼らが人々を打ち殺していた時、私ひとりだけが残されたので、ひれ伏して、叫んで言つた、「ああ主なる神よ、あなたがエルサレムの上に怒りを注がれるとき、イスラエルの残りの者を、ことごとく滅ぼされるのですか」。

9 主は私に言われた、「イスラエルとユダの家の罪は非常に大きい。国は血で満ち、町は不義で満ちている。彼らは言う、『主はこの地を捨てられた。主は顧みられない』」。

10 それゆえ、私の目は彼らを惜しみ見ず、またあわれまない。彼らの行くところを、彼らのごうべに報いる」。

11 時に、かの亜麻布を着、物を書く墨つぼを腰につけていた人が報告して言つた、「私はあなたがお命じになつたように行いました」。

憎むべき偶像は子よ、主の家
ねたみの偶像

惜しむべきことあつた子よ
亜麻布を着、墨つぼ

歌23



亜麻布人 栄光
ケルビム

1 時に私は見ていたが、見よ、ケルビムの頭の上の大空に、サファイヤのようなものが王座の形をして、その上に現れた。

2 彼は亜麻布を着たその人に言われた、「ケルビムの下の回る車の間にはいり、ケルビムの間から炭火をとつてあなたの手に満たし、これを町中にまき散らせ」。

3 この人がはいつた時、ケルビムは宮の南側に立つていた。また雲はその内庭を満たしていた。

4 主の栄光はケルビムの上から宮の敷居の上にあがり、宮は雲で満ち、庭は主の栄光の輝きで満たされた。

5 時にケルビムの翼の首が大能の神が語られる声のように外庭にまで聞えた。

6 彼が亜麻布を着ている人に、「回る車の間、ケルビムの間から火を取れ」と命じた時、その人ははいつて、輪のかたわらに立った。

7 ひとりのケルプはその手をケルビムの間から伸べて、ケルビムの間にある火を取り、亜麻布を着た人の手に置いた。すると彼はこれを取って出て行った。

8 ケルビムはその翼の下に人の手のような形のものを持っているように見えた。

9 私が見ていると、見よ、ケルビムのかたわらに四つの輪があり、一つの輪はひとりのケルプのかたわらに、他の輪は他のケルプのかたわらにあった。輪のさまは、光る貴かんらん石のようであった。

10 そのさまは四つとも同じ形で、あたかも輪の中に輪があるようであった。

11 その行く時は四方のどこへでも行く。その行く時は回らない。ただ先頭の輪の向くところに従い、その行く時は回ることをしない。

12 その輪縁、その輻、および輪には、まわりに目が満ちていた。―その輪は四つともこれを持っていた。

13 その輪は私の聞いている所で、「回る輪」と呼ばれた。

14 そのおのおのには四つの顔があった。第一の顔はケルプの顔、第二の顔は人の顔、第三はししの顔、第四はわしの顔であった。

主の栄光 - ケルビム
亜麻布人に炭火。

15 その時ケルビムはのぼった。これがケバル川で私が見た生きものである。

16 ケルビムの行く時、輪もそのかたわらに行き、ケルビムが翼をあげて地から飛びあがる時は、輪もそのかたわらを離れない。

17 その立ちどまる時は、輪も立ちどまり、そののぼる時は、輪も共にのぼる。生きものの霊がその中にあるからである。

18 時に主の栄光が宮の敷居から出て行って、ケルビムの上立った。

19 するとケルビムは翼をあげて、私の目の前で、地からのぼった。その出て行く時、輪もまたこれと共にあり、主の宮の東の門の入口の所へ行って止まった。イスラエルの神の栄光がその上にあつた。

20 これがすなわち私がケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見たかの生きものである。私はそれがケルビムであることを知っていた。

21 これにはおのおの四つの顔があり、おのおの四つの翼があり、また人の手のようなものがその翼の下にあつた。

22 その顔の形は、ケバル川のほとりで私が見たそのままの顔である。おのおのその前の方にまっすぐに行つた。



さばきはよい、
つぎはよい

1時に霊は私をあげて、東に向かう主の宮の東の門に連れて行った。見よ、その門の入口に二十五人の者がいた。私はその中にアズルの子ヤザニヤと、ベナヤの子ベラテヤを見た。共に民のつかみずであった。
 2すると彼は私に言われた、「人の子よ、これらの者はこの町の中で悪い事を考え、悪い計りごとをめぐらす人々である。
 3彼らは言う、「家を建てる時は近くはない。この町はなべであり、われわれは肉である」と。
 4それゆえ、彼らに向かつて預言せよ。人の子よ、預言せよ。
 5時に、主の霊が私に下つて、私に言われた、「主はこう言われると言え、イスラエルの家よ、考えてみよ。私はあなたがたの心にある事どもを知っている。
 6あなたがたはこの町に殺される者を増し、殺された者をもつてちまたを満した。
 7それゆえ、主なる神はこう言われる、町の中にあなたがたが置く殺された者は肉である。この町はなべである。しかし、あなたがたはその中から取り出される。
 8あなたがたはつるぎを恐れた。私はあなたがたにつるぎを臨ませると、主は言われる。
 9また私はあなたがたをその中から引き出して、他国人の手に渡し、あなたがたをさばく。
 10あなたがたはつるぎに倒れる。私はあなたがたをイスラエルの境でさばく。これによつてあなたがたは私が主であることを知るようになる。
 11この町はあなたがたに対してなべとはならず、あなたがたはその肉とはならない。私はイスラエルの境でああなたがたをさばく。
 12これによつて、あなたがたは私が主であることを知るようになる。あなたがたは私のために歩まず、また私のおきてを行わず、かえつてその周囲の他国人のおきてに従つて行つていからである」。
 13このように私が預言していた時、ベナヤの子ベラテヤが死んだので、私は打ち伏して、大声で叫んで言った、「ああ主なる神よ、あなたはイスラエルの残りの者をことごとく滅ぼそうとされるのですか」。

肉. 命 2: , 6: , 9: , 17: ...
14時子者 2: 12-17
エゼキエル

神が来たせい。
この町はなべと肉?
殺された者?

散らされた民が帰る子

まだ、家を建てる。それはなべ。
我は肉。

14時に主の言葉が私に臨んで言った。
 15「人の子よ、あなたの兄弟、あなたの友、あなたの兄弟である捕われ人、イスラエルの全家、エルサレムの住民は言った、「彼らが主から遠く離れた。この地はわれわれの所有として与えられているのだ」と。
 16それゆえ、言え、「主なる神はこう言われる、たとい私は彼らを遠く他国人の中に移し、国々の中に散らしても、彼らの行った国々で、私はしばらく彼らのためは聖所となる」と。
 17それゆえ、言え、「主はこう言われる、私はあなたがたをもろもろの民の中から集め、その散らされた国々から集めて、イスラエルの地をああなたがたに与える」と。
 18彼らはその所に来る時、そのもろもろのいとうべきものと、もろもろの憎むべきものとをその所から取り除く。
 19そして私は彼らに一つの心を与え、彼らのうちに新しい霊を授け、彼らの肉から石の心を取り去つて、肉の心を与える。
 20これは彼らが私のために歩み、私のおきてを守つて行い、そして彼らが私の民となり、私が彼らの神となるためである。
 21しかしいとうべきもの、憎むべきものをその心に募つて歩む者には、彼らの行いに従つてそのこうべに報いると、主なる神は言われる」。
 22時にケルビムはその翼をあげた。輪がそのかたわらにあり、イスラエルの神の栄光がその上にあつた。
 23主の栄光が町の中からのぼつて、町の東にある山の上に立ちどまつた。
 24その時、霊は私をあげ、神の霊によつて、幻のうちに私をカルテヤの捕われ人の所へ携えて行つた。そして私が見た幻は私を離れてのぼつた。
 25そこで私は主が私に示された事をことごとくかの捕われ人に告げた。

主の栄光が東にさす。



1 主の言葉が私に臨んだ、
 2 「人の子よ、あなたは**反逆の家**の中にいる。彼らは見る目があるが見ず、聞く耳があるが聞かず、**彼らは反逆の家**である。
 3 それゆえ、人の子よ、**捕囚の荷物を整え**、彼らの目の前で昼のうちに移れ、**彼らの目の前であなたの所から他の所に移れ**。彼らは**反逆の家**であるが、あるいは彼らは顧みるところがあろう。
 4 あなたは、**捕囚の荷物**のようなあなたの荷物を、彼らの目の前で昼のうちに持ち出せ。そして**捕囚**に行くべき人々のように、**彼らの目の前で夕べのうちに**出て行け。
 5 すなわち彼らの目の前で**壁に穴**をあけ、そこから出て行け。
 6 あなたは彼らの目の前でその荷物を肩に負い、やみのうちにそれを運び出せ。あなたの顔をおおつて地を見るな。私はあなたをしるしとなして、イスラエルの家に示すのだ”。
 7 そこで私は命じられたようにし、**捕囚の荷物**のような荷物を昼のうちに持ち出し、夕べには私の手で壁に穴をあけ、やみのうちに彼らの目の前で、これを肩に負って運び出した。

反逆の家よ、
 壁に穴をあけ捕囚とし。

8 次の朝、主の言葉が私に臨んだ、
 9 「人の子よ、**反逆の家**であるイスラエルの家は、あなたに向かつて、「何をしているのか」と言わなかったか。
 10 あなたは彼らに言いなさい、「主なる神はこう言われる、この託宣はエルサレムの君、およびその中にあるイスラエルの全家にかかわるものである」と。
 11 また言いなさい、「私はあなたがたのしるしである。私がしたとおりに彼らもされる。彼らはとりこにされて移される」と。
 12 彼らのうちの君は、やみのうちにその荷物を肩に載せて出て行く。彼は**壁に穴**をあけて、そこから出て行く。彼は顔をおおつて、自分の目でこの地を見ない。
 13 私は私の網を彼の上に打ちかける。彼は私のわなにかかる。私は彼をカルデヤびとの地のバビロンに引いて行く。しかし彼はそれを見ないで、そこで死ぬであろう。
 14 またすべて彼の周囲にいて彼を助ける者および彼の軍隊を、私は四方に散らし、つるぎを抜いてそのあとを追う。
 15 私が彼らを諸国民の中に散らし、国々にまき散らすとき、彼らは私が主であることを知る。
 16 ただし、私は彼らのうちに、**わずかの者を残して、つるぎと、ききんと、疫病を免れさせ**、彼らがおこなったもろもろの憎むべきことを、彼らが行く国びとの中に告白せよう。そして彼らは私が主であることを知るようになる”。
 17 主の言葉がまた私に臨んだ、
 18 「人の子よ、震えてあなたのパンを食べ、おのきと恐れをもつて水を飲め。
 19 そしてこの地の民について言え、主なる神はイスラエルの地のエルサレムの民についてこう言われる、彼らは恐れをもつてそのパンを食べ、驚きをもつてその水を飲むようになる。これはその地が、すべてその中に住む者の暴虐のために衰え、**荒地地**となるからである。
 20 人の住んでいた町々は荒れはて、地は**荒地**となる。そしてあなたがたは、私が主であることを知るようになる”。



11:3

むなしい幻を見
その日は、預言者
13:

12

21 主の言葉が私に臨んだ、
 22 「人の子よ、イスラエルの地について、あなたがたが『日は延び、すべての幻はむなしくなった』という、このことわざはなんであるか。
 23 それゆえ、彼らに言え、『主なる神はこう言われる、私はこのことわざをやめさせ、彼らが再びイスラエルで、これをことわざとしないようにする』と。しかし、あなたは彼らに言え、『日とすべての幻の実現とは近づいた』と。
 24 イスラエルの家のうちには、もはやむなしい幻も、偽りの占いもなくなる。
 25 しかし主なる私は、わが語るべきことを語り、それは必ず成就する。決して延びることはない。ああ、**叛逆の家よ**、あなたの日に私はこれを語り、これを成就すると、主なる神は言われる』。
 26 主の言葉がまた私に臨んだ、
 27 「人の子よ、見よ、イスラエルの家は言う、『彼の見る幻は、なお多くの日の後の事である。彼が預言することは遠い後の時のことである』と。
 28 それゆえ、彼らに言え、主なる神はこう言われる、私の言葉はもはや延びない。私の語る言葉は成就すると、主なる神は言われる』。

13

1 主の言葉が私に臨んだ、
 2 「人の子よ、イスラエルの預言者たちに向かって預言せよ。すなわち自分の心のままに預言する人々に向かって、預言して言え、『あなたがたは主の言葉を聞け』。
 3 主なる神はこう言われる、なにも見ないで、自分の霊に従う愚かな預言者たちはわざわいだ。
 4 イスラエルよ、あなたの預言者たちは、荒れ跡にいるきつねのようだ。
 5 あなたがたは主の日に戦いに立つため、破れ口へのぼらず、またイスラエルの家のために石がきを築こうともしない。
 6 彼らは虚偽を言い、偽りを占った。彼らは主が彼らをつかわさないのに、『主が言われる』と言い、なおその言葉の成就することを期待する。
 7 あなたがたはむなしい幻を見、偽りの占いを語り、私が言わないのに、『主が言われる』と言ったではないか。
 8 それゆえ、主なる神はこう言われる、『あなたがたはむなしい幻を見、偽りの物を見るゆえ、私はあなたを預言する神は言われる』。

13

9 私の手は、むなしい幻を見、偽りの占いを言う預言者に敵対する。彼らはわが民の会に臨まず、イスラエルの家の籍にしるされず、イスラエルの地に、はいることができない。そしてあなたがたは私が主なる神であることを知るようになる。
 10 彼らはわが民を惑わし、平和がないのに『平和』と言いい、また民が塀を築く時、これらの預言者たちは水しつくいをもつてこれを塗る。
 11 それゆえ、水しつくいを塗る者どもに『これはかならずくずれる』と言え。これに大雨が注ぎ、ひょうが降り、あらしが吹く。
 12 そして塀がくずれる時、人々はあなたがたに向かつて、『あなたがたが塗った水しつくいはどこにあるか』と言わないであろうか。
 13 それゆえ、主なる神はこう言われる、私はわが憤りをもつて大風を起し、わが怒りをもつて大雨を注がせ、憤りをもつてひょうを降らせて、これを滅ぼす。
 14 また私はあなたがたが水しつくいをもつて塗った塀をこわして、これを地に倒し、その基をあらわす。これが倒れる時、あなたがたはその中に滅びる。そしてあなたがたは、私が主であることを知るようになる。
 15 こうして私が、その塀と、これを水しつくいであらわす者との上に、私の憤りを漏らし尽して、あなたがたに言う、塀はなくなり、これを塗った者もなくなる。
 16 これがすなわち平和がないのに**平和の幻**を見、エルサレムについて預言したイスラエルの預言者であると、主なる神は言われる。
 17 人の子よ、心のままに預言するあなたの民の娘たちに対して、あなたの顔を向け、彼らに向かって預言して、
 18 言え、主なる神はこう言われる、手の節々に占いひもを縫いつけ、もろもろの大きさの人の頭に、かぶり物を作りかぶせて、魂をかり取ろうとする女はわざわいだ。あなたがたは、わが民の魂をかり取って、あなたがたの利益のために、他の魂を生かしおこうとするのか。
 19 あなたがたは少しばかりの大妻のため、少しばかりのパンのために、わが民のうちに、私を汚し、かの偽りを聞きいれるわが民に偽りを述べて、死んではならない者を死なせ、生きていてはならない者を生かす。
 20 それゆえ、主なる神はこう言われる、見よ、私はあなたがたが用いて、魂をかり取るところの占いひもを奪い、あなたがたの腕から占いひもを裂き取って、あなたがたがかり取るところの魂を、鳥のように放ちやる。
 21 私はまたあなたがたの、かぶり物を裂き、わが民をあなたがたの手から救う。彼らは再びあなたがたの獲物とはならない。そしてあなたがたは私が主であることを知るようになる。
 22 あなたがたは偽りをもつて正しい者の心を悩ました。私はこれを悩まसानかった。またあなたがたは悪人が、その命を救うために、その悪しき道から離れようとする時、それをしないように勧める。
 23 それゆえ、あなたがたは重ねてむなしい幻を見ることができず、占いをするのできないようになる。私はわが民を、あなたがたの手から救い出す。そのとき、あなたがたは私が主であることを知るようになる』。

